

# 2018年11月26日掲載 輸送新聞

## 札幌支店の竣工披露式開く

### ホーム1.2倍に拡張

#### 第一貨物 両面をインドア化

第一貨物（武藤幸規社長）は21日、北海道北広島市の現地で、新築した札幌支店の披露式を行った。きょう26日から営業を開始する。札幌市北区の旧札幌支店が老朽化したことから、新施設を建設し移転するもの。

新・札幌支店は、道央自動車道北広島インターチェンジそばの、北広島市大曲幸町1の7の1に所在。敷地面積は2万7000平方メートル、建物は鉄骨造平屋建て・延べ床面積7300平方メートルの規模。このうち荷捌ホームは250

0平方メートル、旧支店から1.2倍に拡大した。風雨雪の吹き込みを考慮し、同社としては初めて運行車側と集配

車側のホーム両面をインドア化したほか、乾雪が多い気候を踏まえ、荷捌ホームの屋根をフラットに近い形状

の無落雪屋根としており、凍結によるスリップ回避のためにロードヒーティングも敷設した。さらに、事務所と荷捌ホームともに長寿命LED照明を採用するなど環境にも配慮し、災害時の物流拠点と近隣の避難場所として機能できるなど、自治体からの要請にも積極的に応じられるよう災害対応にも力を入れた施設となっている。

従業員数は81人、保有車両台数は71台、札幌市・恵庭市・北広島市を自社配達エリアとし、いずれも旧支店からの変更はない。特種点として機能させ、保管や流通加工機能は持たない。

披露式で主催者あいさつした武藤社長は「旧施設は建築から44年が経過するなど老朽化し、かねてから新築を拡大していきたい」と意欲を示した。

来賓からは、北広島市の上野正三市長、河村電器産業の小河武仁札幌工場長が祝辞を述べた。



写真上＝札幌支店の施設、ホームはインドア化した 写真下＝鏡開きに臨む武藤社長（右から2人目）